



令和5年度 6月人権一口講座



「にわかファンの私が嫌いな『決めつけ・うわさ』」

3月に開催されたWBC（ワールドベースボールクラシック）において、我らの「日本代表」は、予選ラウンドを全勝（4勝）で一位通過し、決勝トーナメントではイタリアに快勝した後、メキシコ戦では、この大会中、不振が続いていた九州学院出身「令和初にして史上最年少の三冠王」（※打率・打点・本塁打すべてタイトルを獲得すること）の村上宗隆選手（野球ファンの間では、通称「村神様」と呼ばれる凄い選手）の劇的な「さよならヒット」でメキシコに勝利し、アメリカ合衆国との決勝にコマを進めた。

決勝の様子は、テレビで連日放送されていたので多くの方がご存じと思うが、2回に先制点を許すも2本のホームランなどで直ぐに逆転し、1点リードで迎えた9回裏には、MLB（メジャーリーグベースボール）の大谷翔平選手（ベールース以来104年振りの2桁勝利・2桁本塁打を達成、シーズンMVも獲得した日本が誇るスーパースター）が登場し、先頭打者にフォアボールを与えたが次の打者をダブルプレーに打ち取り、最後のバッターは「トラウト選手」（大谷翔平のチームメイトで「年俸約50億円」バリバリのメジャーリーガー）を160キロのストレート（直球）で追い込み、最後はエグイ（鋭く曲がる）スライダーで空振り三振を奪い、3大会振り3度目の世界一に輝いたことは、多くの方の記憶に新しいことだろう。

決勝が始まる前のロッカールームで、大谷選手が日本選手全員に伝えた言葉がある。

「憧れるのをやめましょう！」

憧れてしまったら相手は越えられないし、自分の実力以上の力は発揮できない。世界一を勝ち取るためにここに来たので、勝つことだけを考えて試合に臨もう！という事を集約した一言である。

以前、サッカーのワールドカップの話題を取り上げた際にも私は書いたのだが、人間は自分や相手の性格や能力を最初から決めつけたり、「うわさ」だけで相手の事を判断してしまいがちである。

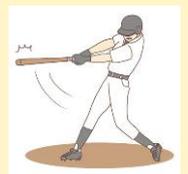
「うわさ」特に悪いうわさには、尾ひれが付いて話が大きくなっていく事が多いですよ。

「うわさを信じないほうがいいよ」という歌い出しの昭和歌謡がありますが、私は思うのです。「人のうわさは話半分聞いておき、自分の目で見て聞いたうえ」で、「相手の人柄を判断できる、謙虚でやさしい大人になりたいものである」と。

書き出し始めて「もうこのくらいにして、もうこのくらいにして、もうこのくらいにして、もうこのくらいにして。」

最後に私から一言。「うわさを信じないほうがいいよ」と。

（熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和五年度六月号より）



短いメッセージ 「らしさ」を あなたが 決めないで
「自分らしさ」は 自分で 決めるから

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー- 湖東中学校3年 福島 心晴さん (2022年度の作品より)